

総務環境常任委員会委員長 菅 原 満

日 時	令和7年10月22日（水） 13時00分～15時00分
視 察 先	三重県菰野町
視 察 目 的	特定事件 19 交通安全について 特定事件 22 都市計画事業について ・先進モビリティサービスについて
視 察 概 要	<p>◎市勢概要：面積 107.28 km²、市南部に人口（40,557 人/令和7年6月）の40%が居住し、鉄道駅も南部に位置している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス、オンデマンドの必要性ということを受けて、平成20年に公共交通会議を設置し、議論を重ねてきている。 ・府内の鉄道、路線バス、コミュニティバス、AI オンデマンド乗合交通（菰野町乗合タクシー）に令和10年度の目標値を設定して取組を進めている。 ・地域懇談会を町内5大地区で開催、町や利用者と公共交通について意見交換を行っており（7～8月）、運行改善や公共交通施策に反映するように取り組んでいる。 ・バス路線を基幹部分、枝葉の部分をのりあいタクシーで運行することで利便性の向上を図る。 ・運行経費は、令和6年度でコミュニティバス（約8,895万円）、のりあいタクシー（約3,061万円）で、双方、町委託料が約9割である。 ・「のりあいタクシー」の利用率、運行効率を上げるため、菰野町MaaS「おでかけこもの」をNTTドコモにより構築。2019年に国土交通省で採択されてスタートしている。複数公共交通機関を考慮した「複合経路検索」であり、「のりあいタクシー」の予約・決済まで完結できるMaaSサービスとなっている。 ・高齢者向けにMaaSサービス利用のスマートフォン講座を実施しており、窓口でも利用方法の周知に取り組んでいる。 ・「おでかけこもの」は、2019年の実証・実装から、前年度実証結果を翌年に実装する仕組みとして継続実施している。毎年、国か県の補助金を獲得して、サービス向上に活用している。 ・「おでかけこもの」の費用としては、導入費用3,157万円（国補助金1,420万円、町委託料1,737万円）、ランニングコスト1,242万円、システム改修が年間650～1,800万円（国補助金活用）。 ・「主要乗り場運行情報」をデジタルサイネージ（町内5か所）に設置

	している。コミュニティバス、のりあいタクシー等、他に町広報も表示される。
所見及び所感	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスに乗車時の声掛けで割引扱いとなるので、利用者、運転手、優待乗車証発行の事務負担軽減に資するのではないか。 ・和光市でのりあいタクシーなどタクシー利用を導入する場合は、台数、待ち時間、システムの課題を参考に検討していくことが必要と考える。

総務環境常任委員会委員長 菅 原 満

日 時	令和7年10月23日（木） 9時30分～11時30分
視 察 先	京都府亀岡市
視 察 目 的	特定事件 16 環境・公害対策について 特定事件 18 リサイクル及びごみ処理対策について <ul style="list-style-type: none"> ・かめおか脱炭素未来プランについて
視 察 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・プラごみゼロ、ゼロエミッション、カーボンゼロを目指し、温室効果ガスを2030年に基準年度比50%削減、2050年にカーボンニュートラルを目標として、バックキャストで削減目標を掲げて取り組んでいる。 ・地域循環共生圏の発展と亀岡ブランドを目指す「経済循環型ゼロカーボン亀岡」として取組を進めている。付加価値化による経済循環（農業×環境、芸術×環境）を挙げている。 ・温室効果ガス排出量は、2012年度から漸減している。 ・「再エネ導入による問題を未然に防ぎつつ、適切な再エネの普及を目指すことを目的」として、地域の自然環境や景観・生態系・防災リスクを考慮、「保全」、「調整」、「促進」、「導入可能性検討」の4エリアにゾーニングし、地上型太陽光発電設備の設置に取組んでいる。 ・このゾーニングの検討では、令和5年度から令和6年度の2か年で、法令など各種の情報収集、専門家や地域の関係機関へのヒアリング・アンケート、協議会の開催、パブリックコメント、環境影響評価など、様々な調査や意見収集により、導入可能性検討エリアを抽出し、そして、ゾーニングマップを完成した。 ・エネルギーの地産地消として、市内3か所のメガソーラーと太陽光発電、浄化センター消化ガス発電所から公共施設を中心に83施設と契約し、供給をしている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根置き太陽光発電設備の設置では、発電ポテンシャルを考慮し、市街化区域を対象とし、やはり、保全エリア、調整エリア、促進エリア、導入可能性検討エリアとしてゾーニングしている。 ・「亀岡ふるさとエナジー株式会社」を亀岡市と民間事業者の連携で設立し、再エネ供給・省エネサービスを展開、エネルギーの地産地消を推進。 ・さらに、「亀岡市の地域特性等を踏まえたカーボンニュートラル実現に資する事業」をテーマに民間事業者から事業提案を募集し、8件の提案のうち3件を採用した。水田地域・排水性・施用有機物量に応じた排出量減量（CO₂）に「クレジット」として認定。まだ、実績としては少額となっているが、価格に応じた収益が得られることとしている。
所見及び所感	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニングのための各種調査や意見収集等は、市民や事業者の理解や協力を進める上で大切な手法の一つであると感じた。 ・カーボンニュートラルで地域経済循環という視点も入れた民間との携については、地域一体としての取組という点で参考になると感じた。

総務環境常任委員会副委員長 岩澤侑生

日 時	令和7年10月22日（水） 13時00分～15時00分
視 察 先	三重県菰野町
視 察 目 的	特定事件 19 交通安全について 特定事件 22 都市計画事業について ・先進モビリティサービスについて
視 察 概 要	<p>三重県菰野町を訪問し、先進モビリティサービスの導入による地域公共交通の維持と利便性向上の取組について行政視察を行った。</p> <p>菰野町は人口約4万人、高齢化率約30%の中山間地域であり、鉄道や路線バスの利用減少、地域内移動手段の確保が課題となっている。</p> <p>町では近鉄湯の山線や三重交通バスの既存公共交通を基幹に据えつつ、町内移動を補完するためにコミュニティバス「かもしか号」とA.Iオンデマンド交通「のりあいタクシー」を整備し、さらに両者を統合する形で菰野町MaaS（Mobility as a Service）「おでかけこもの」を導入している。これにより、複数交通機関の経路検索や運行情報のリアルタイム提供、予約・決済機能を一体化し、町民の利便性を高め</p>

	<p>ているとの説明を受けた。</p> <p>コミュニティバスは均一 200 円（高齢者・障害者等は 100 円）で運行され、IC カードやデジタル乗車券の導入により利便性向上が図られている。AI オンデマンド交通は 3 地区 304 か所の乗降場所を設定し、Web または電話での事前予約により短距離移動を支えており、予約の約 8 割がオンライン経由で行われている。町はこれらの取組に加え、スマートフォン操作講習や役場窓口での利用支援、デジタルサイネージ設置などデジタルディバイド対策も実施し、高齢者を含む町民の利用促進に努めている。</p> <p>また、運営費用はコミュニティバス約 8.9 億円、のりあいタクシー約 3.0 億円、MaaS システム年間約 1.2 億円であり、町費負担は 8 割を超えるが、国の補助制度を活用しながら持続的運営を図っている。</p> <p>視察では、こうした「基幹交通の維持」「域内補完」「デジタル統合」を柱とした体系的な交通政策の実際を確認することができた。</p>
所見及び所感	<p>菰野町の地域公共交通施策は、過疎化や高齢化の進行により従来型の交通網の維持が困難となる中で、デジタル技術と既存交通資源を有機的に融合させ、町全体を一体的なモビリティシステムとして再構築している点に特徴がある。鉄道や広域バス路線の減少を前提としながらも、町内移動を支えるコミュニティバスやオンデマンド交通を柔軟に組み合わせ、さらに MaaS を通じて情報・決済・運行管理を統合することで、利便性と効率性を高い次元で両立させている。</p> <p>運行実績においては、コロナ禍で一時的に落ち込んだ利用が回復傾向にあり、とりわけオンデマンド交通における Web 予約比率の高さは、町のデジタル施策が実際に住民生活の中で機能していることを示している。町費負担は決して小さくないが、費用対効果を単なる収支指標として捉えるのではなく、「住民の移動権の確保」として位置付け、データ分析に基づく改善を重ねることで、持続可能な行政運営を実現している点に工夫が見られた。</p> <p>視察時に役場へ向かうために利用したコミュニティバス「かもしか号」には、高齢者をはじめ多くの住民が乗車しており、通院や買い物など、日常生活のあらゆる場面に欠かせない存在だと話していた。こうした利用の光景は、公共交通が単なる移動のためのインフラではなく、地域住民の生活を直接支える「暮らしの基盤」として機能していることを実感させるものであった。町民にとって、交通手段の確保は</p>

生活の継続そのものであり、政策の成否はその実感に直結しているといえる。

菰野町の施策には、行政が「何を優先すべきか」を現場の声から探し取り、制度設計と運行実務の両面でそれを形にしていく姿勢が貫かれていた。

また、町は高齢者を対象としたスマートフォン講習会の実施や、役場職員による予約支援など、デジタル化の恩恵から取り残されがちな層への配慮を怠らず、単なるシステム導入にとどまらない包括的な支援体制を整えている点も注目された。こうした取組は、デジタル技術を目的ではなく手段として位置付け、地域全体の利便性向上と住民の生活の質の確保を両立させている点において、極めて先進的である。

一方で、本市では自動運転サービス導入事業の実証にあたり、目的や成果・課題の整理が十分とは言えず、住民にとっての実利や生活上の利便性との接点が依然として見えにくい状況にある。菰野町の事例は、交通の「新しさ」ではなく「必要性」に軸足を置き、地域住民の移動を守るという行政の本質的責務を、制度と運用の両面から具現化している点において示唆に富む。

本市においても、先進技術の導入を目的化するのではなく、住民にとって真に必要な移動手段のあり方を再定義し、地域実情に即した交通政策を構築していくことが求められる。

今回の菰野町の取組は、限られた財源の中で「何が本当に必要か」を見極め、行政の責任において実効性のある交通施策を展開する姿勢を学ぶ機会であり、自治体運営における優先順位の明確化と現実的な判断力の重要性を改めて認識させるものであった。

総務環境常任委員会副委員長 岩澤侑生

日 時	令和7年10月23日（木） 9時30分～11時30分
視 察 先	京都府亀岡市
視 察 目 的	特定事件 16 環境・公害対策について 特定事件 18 リサイクル及びごみ処理対策について ・かめおか脱炭素未来プランについて
視 察 概 要	京都府亀岡市を訪問し、「かめおか脱炭素未来プラン」に基づく地域脱炭素化の取組について行政視察を行った。 亀岡市は平成31年に「かめおか脱炭素宣言」を発出し、2050年力

	<p>一ボンニュートラルの実現を目指す具体的な行動計画を策定している。計画では、2030 年度に温室効果ガスを 2013 年度比で 50% 削減、2050 年度に実質ゼロとする明確な数値目標を掲げ、再生可能エネルギー導入と地域資源循環を両輪として推進している。特に、市が出資して設立した「亀岡ふるさとエナジー株式会社」を中核に、電力の地産地消を図りながら P P A 方式による太陽光発電や E V 充電インフラの整備を進めるなど、行政と民間が一体となったエネルギー循環の仕組みを構築している点が特徴である。また、再エネゾーニング事業により、地域の自然環境や土地利用との調和を考慮した導入可能性区域を明確化し、民間提案制度を通じて地域特性を踏まえた実装段階まで展開している。</p> <p>こうした取組は、構想段階から制度設計、実施運営に至るまで一貫した方針のもとで行われており、理念にとどまらず、具体的な成果を見据えた行政運営が展開されている。さらに、環境政策を単独の分野に閉じるのではなく、教育、産業、観光、福祉など多様な政策領域と連携させ、市民を対象とした環境教育や意識啓発活動を通じて、子どもから高齢者までの幅広い世代が主体的に脱炭素社会の実現に参画できる仕組みを整備している。</p> <p>視察では、行政・民間・住民が連携し、地域特性を生かした形で脱炭素社会の実現に向けた取組が総合的かつ着実に進められている実態を確認した。</p>
所見及び所感	<p>亀岡市の脱炭素施策は、理念的スローガンにとどまらず、現実的な行政手法として体系化されている点に大きな特徴がある。特に、地域エネルギー会社を活用した再エネ導入や電力の地産地消は、自治体が主体的に市場構造に関与し、地域経済の循環を生み出す新たなモデルであると感じた。また、再エネ導入におけるゾーニングの考え方は、無秩序な設備設置を防ぎつつ、地域の合意形成と環境保全を両立させる仕組みとして極めて有効であった。さらに、民間提案制度を通じて、行政がすべてを決めるのではなく、企業や地域団体の創意を生かして制度を成長させる柔軟性が確保されていることも印象的である。</p> <p>こうした実装の段階では、行政主導の計画にとどまらず、市民が主体となって行動変容を起こすための仕掛けが随所に見られ、脱炭素を「まちの文化」として根付かせる長期的視点が感じられた。</p> <p>一方で、本市のゼロカーボンシティ宣言は、理念としての方向性を</p>

示す段階にとどまり、具体的な計画や実施体制の整備はこれから課題である。もっとも、亀岡市のように地域特性を踏まえ、制度と実践を両立させることで脱炭素施策を地域の成長戦略にまで昇華させる取組は、本市にとっても大きな示唆を与えるものである。

現地の説明を通じ、脱炭素の取組が行政と市民に着実に根付きつつあることを実感するとともに、宣言を出すことを目的とするのではなく、その後の工程設計と住民参加の仕組みづくりをどう具体化していくかが問われていることを改めて認識した。

今回の亀岡市の事例は、今後の本市の取組の在り方を検討するうえで、極めて有意義なものであった。

総務環境常任委員会委員 齋藤幸子

日 時	令和7年10月22日（水） 13時00分～15時00分
視 察 先	三重県菰野町
視 察 目 的	特定事件 19 交通安全について 特定事件 22 都市計画事業について ・先進モビリティサービスについて
視 察 概 要	1. 実際に市役所まで菰野町駅から路線バスにて、市役所まで乗車 2. 菰野町議長の歓迎あいさつ 3. 和光市議会総務常任委員会あいさつ 4. 「先進モビリティサービスについて」総務課安心安全対策室地域自治振興係長から説明 ● 菰野町の概要説明 ● 菰野町が目指す公共交通 ● 町内各公共交通機関の現状 ● 菰野町 MaaS 「おでかけこもの」 5. 質疑応答 6. 菰野町副議長あいさつ 7. 和光市議会副議長あいさつ
所見及び所感	「公共交通でおでかけしたくなる町」を目指す菰野町を訪問し基本方針を実現するための5つの目標と具体的な取組を学んだ。町内では、6つの公共交通機関が運行されており、コミュニティバスの利用促進に向けた工夫や交通系ICカード利用による運賃1割引制度など、住民が気軽に使える仕組みづくりが進められていた。

	<p>更に、のりあいタクシーをエリア内の乗車場から乗車場まで利用できるなど、地域にあった柔軟な移動支援を展開、MaaS 導入の経緯や、NTT ドコモによるスマートフォン教室の開催など、デジタルを活用した地域交通の推進が印象的だった。交通の利便性と地域のつながりを両立させる姿勢に多くの学びと刺激を受けた。</p> <p>和光市においても「おでかけしたくなるまちづくり」を目指して、推進を進めていきたいと思った。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総務環境常任委員会委員 齋藤幸子

日 時	令和7年10月23日（木） 9時30分～11時30分
視 察 先	京都府亀岡市
視 察 目 的	<p>特定事件 16 環境・公害及びごみ処理対策について</p> <p>特定事件 18 リサイクル及びごみ処理対策について</p> <p>・かめおか脱炭素未来プランについて</p>
視 察 概 要	<p>「カーボンゼロを目指す亀岡市の挑戦」</p> <p>1 亀岡市議会議長 挨拶</p> <p>2 視察事項「かめおか脱炭素未来プラン」について/環境先進都市推進部</p> <p>◎亀岡市について</p> <p>◎トリプルゼロの挑戦！3つのゼロ（プラごみゼロ・ゼロエミッション・カーボンゼロ）の実現にむけて</p> <p>◎かめおか脱炭素未来プラン</p> <p>◎2050年脱炭素社会の実現に向けて</p> <p>◎かめおか脱炭素未来プランの概要</p> <p>◎亀岡市の温室効果ガス排出量の現況と、温室効果ガスの将来推計、削減目標</p> <p>◎再生可能エネルギーのポテンシャルと導入目標</p> <p>◎亀岡ふるさとエナジー株式会社の概要、事業の全体スキーム</p> <p>◎エネルギーの地産地消</p> <p>◎自家消費型太陽光発電</p> <p>◎亀岡市地域再エネゾーニング事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニングの背景、目的、エリア区分 ・ゾーニングの対象設備、検討プロセス <p>◎地上設置型太陽光のゾーニング結果</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・概要・保全エリア・調整エリア・促進エリア・導入可能性検討エリア <p>◎屋根置き型太陽光のゾーニング結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニング結果、導入可能性検討エリア <p>◎亀岡市カーボンニュートラルエリア、促進区域の設定</p> <p>◎民間提案制度</p> <p>実施概要、採用事業、実施状況</p> <p>3 質疑</p>
所見及び所感	<p>カーボンゼロを目指すまちの挑戦</p> <p>亀岡市を訪問し、「カーボンゼロ」をはじめとした、脱炭素社会への取組を視察した。同市では、豊かな自然環境という地域資源を最大級に生かし、「トリプルゼロの挑戦」として、①プラスチックごみゼロ、②ゼロエミッション、③カーボンゼロ、この3つのゼロの実現するための説明を受けた。特に印象に残ったのは、使い捨てプラスチック削減への市民と一体となった取組と、再生可能なエネルギーの導入促進地域循環型の資源管理システムの推進である。市内事業者や住民、行政が連携しながら、環境負荷を減らすための具体的な行動を「自分ごと」として、進めている姿勢が感じられた。また、ゼロカーボンシティ宣言に基づき、地域全体で脱炭素社会の実現に向けたロードマップが着実に進められており、持続可能な未来を見据えたビジョンの共有が印象に残った。</p> <p>今後、和光市においても、地域特性を生かしながら、「市民・事業者・行政が共に進める環境」を目指していきたいと思った。</p>

総務環境常任委員会委員 伊藤妙子

日 時	令和7年10月22日(水) 13時00分～15時00分
視 察 先	三重県菰野町
視 察 目 的	特定事件 19 交通安全について 特定事件 22 都市計画事業について ・先進モビリティサービスについて
視 察 概 要	1. 実際に市役所まで菰野町駅から路線バスにて、市役所まで乗車 2. 菰野町議長挨拶 3. 「先進モビリティサービスについて」総務課安心安全対策室 地域自治振興係長から説明

	<ul style="list-style-type: none"> ●菰野町の概要説明 ●菰野町が目指す公共交通 ●町内各公共交通機関の現状 ●菰野町 MaaS 「おでかけこもの」 <p>4. 質疑応答</p> <p>5. 菰野町副議長挨拶</p>
所見及び所感	<p>菰野町駅からの路線バスで、乗車しているお客様が楽しく話している様子を見て、満足度の高さが感じ取れた。</p> <p>担当部局からの説明が大変わかりやすく、町民の声を聞き、実際に取り入れながら、町民が使えるよう、説明会を開催するなど、地道な努力で、菰野町 MaaS 「おでかけこもの」を作り上げた事が良く理解出来た。</p> <p>本市でも、和光版 MaaS との言葉が浸透しているが、まだ形が見えていない中で、大変参考になった。</p> <p>庁舎の窓から望む景色の中に、御在所岳、湯の山温泉街があり、再度観光に訪れたくなる街だった。</p>

総務環境常任委員会委員 伊 藤 妙 子

日 時	令和 7 年 10 月 23 日 (木) 9 時 30 分～11 時 30 分
視 察 先	京都府亀岡市
視 察 目 的	特定事件 16 環境・公害対策について 特定事件 18 リサイクル及びごみ処理対策について ・かめおか脱炭素未来プランについて
視 察 概 要	<p>「カーボンゼロを目指す亀岡市の挑戦」</p> <p>1. 亀岡市議会議長 挨拶</p> <p>2. 視察事項「かめおか脱炭素未来プラン」について/環境先進都市推進部</p> <p>◎亀岡市について</p> <p>◎トリプルゼロの挑戦！3 つのゼロ（プラごみゼロ・ゼロエミッション・カーボンゼロ）の実現にむけて</p> <p>◎かめおか脱炭素未来プラン</p> <p>◎2050 年脱炭素社会の実現に向けて</p> <p>◎かめおか脱炭素未来プランの概要</p> <p>◎亀岡市の温室効果ガス排出量の現況と、温室効果ガスの将来推</p>

	<p>計、削減目標</p> <p>⑤再生可能エネルギーのポテンシャルと導入目標</p> <p>⑥亀岡ふるさとエナジー株式会社の概要、事業の全体スキーム</p> <p>⑦エネルギーの地産地消</p> <p>⑧自家消費型太陽光発電</p> <p>⑨亀岡市地域再エネゾーニング事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニングの背景、目的、エリア区分 ・ゾーニングの対象設備、検討プロセス <p>⑩地上設置型太陽光のゾーニング結果</p> <p>⑪概要・保全エリア・調整エリア・促進エリア・導入可能性検討エリア</p> <p>⑫屋根置き型太陽光のゾーニング結果</p> <p>ゾーニング結果、導入可能性検討エリア</p> <p>⑬亀岡市カーボンニュートラルエリア、促進区域の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間提案制度 <p>実施概要、採用事業、実施状況</p> <p>3. 質疑応答</p>
所見及び所感	<p>亀岡市役所に到着し、1階フロアに展示されたプラごみゼロの取組や、地域資源である、「桜石」や「アユモドキ」という魚などを目にし、市民と共にまちづくりを進めていく姿勢を感じた。</p> <p>視察事項の説明は、かなり本格的な取組をされていることが分かり、感銘を受けた。特に、亀岡市の霧が多い気候の特徴を生かして農業を発展させ、市民事業者と連携した省エネルギーの推進、地域資源を活用した再生可能エネルギー等の導入を進めている取組内容を伺い、本市においても取組を始める上で、非常に参考になると思った。</p>

総務環境常任委員会委員 小嶋智子

日 時	令和7年10月22日(水) 13時00分～15時00分
視 察 先	三重県菰野町
視 察 目 的	特定事件 19 交通安全について 特定事件 22 都市計画事業について ・先進モビリティサービスについて
視 察 概 要	・「公共交通で気軽におでかけしたくなるまちを目指して」が一番の目標であり、菰野町地域公共交通計画の基本方針である。

所見及び所感	<ul style="list-style-type: none"> 早いタイミングで必要だったため菰野町地域公共交通会議を早くから立ち上げ、年間3～4回開催している。さらに適宜研修会、分科会を実施。 地域住民の声を聴く地域懇談会を毎年開催し、町民や利用者と意見交換を実施。改正（運行改善、ダイヤ改善、路線変更など）に反映する。 菰野町地域公共交通計画を令和6年3月に策定。 公共交通機関ごとに目標値を設定。 三重交通が運行していた路線バスと、保健福祉センターや菰野厚生病院への高齢者の移動目的として運行していた福祉バス（無料）を統合してコミュニティバスの運行を開始（有料）。行政も足を運んで理解を得てきた。 コミュニティバス利用促進の取組として、停留所・ダイヤ改正をだいたい年2回程度実施。交通系ICカード導入。学生向け1日乗車券、デジタルチケットを導入。 A I オンデマンド乗合交通「のりあいタクシー」は事前予約（Webかコールセンター）が必要。エリア内に設置された「乗車場所」から「乗車場所」まで乗車。のりあいタクシー運賃のみでコミュニティバスと乗り継ぎができる。 菰野町MaaSシステム「おでかけこもの」を開発・導入する。サービス利用率向上およびデジタルディバイド解消に向けた高齢者向けスマートフォン教室を各地区で実施。前年度実証結果を翌年実装する仕組み作りを継続実施。アプリだと高齢者は難しいので、Webブラウザでの運用にこだわった。 ある程度ニーズは満たしているが予約が取りづらい状況を、どう解消するかがこれからの課題。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総務環境常任委員会委員 小嶋智子

時	令和7年10月23日（木） 9時30分～11時30分
視察先	京都府亀岡市
視察目的	特定事件 16 環境・公害対策について 特定事件 18 リサイクル及びごみ処理対策について ・かめおか脱炭素未来プランについて
視察概要	・カーボンゼロはあらゆる手段を行っていかないと実現できない。複

所見及び所感	<p>合的に取り組みゼロカーボンを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市役所の取組として、2030 年度までに市役所から出る温室効果ガスを 50% 削減。エネルギー消費量を毎年 1 % 削減する。(前年度比) 市全域の取組として、2050 年カーボンニュートラル。亀岡ふるさとエナジー株式会社(府内初の自治体新電力会社)と連携しながら進めていく。 かめおか脱炭素未来プラン <p>① 「かめおか脱炭素宣言」に基づく 2050 年カーボンニュートラル実現に向けて、温室効果ガスの削減目標と再生可能エネルギーの導入目標を設定し、その目標を達成するための施策を示すもの。</p> <p>② 環境部門だけではなく、他部門とも連携をして達成していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運輸部門 自動車台数は横ばいのため、自然現象は見込めないので対策として、EV 等の次世代自動車への転換、カーシェアリング。 家庭部門 温室効果ガス排出量は、人口より世帯数の影響が大きいので対策として、省エネ促進や住宅への太陽光導入。 温室効果ガスの削減目標は 2030 年に基準年度(2013) 比で 50% 削減、2050 年カーボンニュートラル目標達成への道筋をバックキャストで算出。 亀岡市としては太陽光発電に大きなポテンシャルがある。バイオマス発電の導入も検討し、省エネやエネルギー転換も組み合わせながら目標達成を目指す。 市内で調達した電力を市内公共施設や事業所に供給・消費している。地産地消率 60%。 再エネ導入による問題を未然に防ぎつつ、適切な再エネの普及を目指すことを目的とし、ゾーニングマップを作成。 市民の理解を得るために、対話しながらの説明が大切。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総務環境常任委員会委員 赤 松 祐 造

日 時	令和 7 年 10 月 22 日 (水) 13 時 00 分～15 時 00 分
視 察 先	三重県菰野町
視 察 目 的	特定事件 19 交通安全について 特定事件 22 都市計画事業について ・先進モビリティサービスについて
視 察 概 要	菰野町が目指す公共交通と現状、先進モビリティサービスについて

	<p>人口 40,557 人 面積 107 平方 km</p> <p>基本方針 「公共交通で気軽にお出かけしたくなるまちを目指して」</p> <p>5 つの目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者が車がなくてもおでかけしたくなるまち 2. 小中高校生が元気に通学し活動したくなるまち 3. 来訪者が安心して移動したくなるまち 4. 様々な人が安全におでかけできるまち 5. 持続可能な交通体系を持つまち <p>地域住民の声を聞く、地域懇談会を町内 5 大地区で例年 7 ~ 8 月に開催し公共交通施策に反映し、菰野町 MaaS システム「おでかけこもの」を開発し導入し合理化している。</p> <p>特筆するところは ① コミュニティバス ② のりあいタクシー</p> <p>① コミュニティバスは 4 台、高齢者が町内福祉施設や基幹病院を回る福祉バスと路線バスを統合してコミュニティバスに統合して運行している。料金は 200 円（小学生、65 歳以上、障害者は 100 円）IC カードを利用すれば 1 割引として利用促進を図っている。</p> <p>総運行経費約 8,900 万円（運賃収入 680 万円他、国補助金 540 万円、町 7,700 万円）</p> <p>② のりあいタクシーは 3 台 A I オンデマンド乗合交通にして町内各所の乗降場所を設置している。乗降場所は現在 304 箇所あり、区長が必要と認めれば設置</p> <p>料金はエリア別 大人 400 円、300 円、小学生、65 歳以上、障害者は 100 円引き</p> <p>コミュニティバスと乗り継ぎができる利点もある。</p> <p>総運行経費約 3,000 万円（運賃収入 380 万円）</p> <p>菰野町 MaaS 「おでかけこもの」を促進の為、高齢者向けスマートフォン教室を各地で取組み、タクシー予約、デジタルチケットの利用が進んでおり、利用者全体の 80% 以上がスマートフォンで予約しており、多くが高齢者。</p>
所見及び所感	<p>菰野町の特筆する点は元路線バスと福祉バスを統合してコミュニティバスにしている。高齢者向けのスマートフォン教室を早くから取組み、時代の先取りをしている点、学ぶべき点が多く感謝。当市の MaaS を促進するには、高齢者向けのスマートフォン教室の取組に尽力すべきであると思う。</p>

総務環境常任委員会委員 赤 松 祐 造

日 時	令和7年10月23日（木） 9時30分～11時30分
視 察 先	京都府亀岡市 環境先進都市推進部 環境政策課
視 察 目 的	特定事件 16 環境・公害対策について 特定事件 18 リサイクル及びごみ処理対策について ・かめおか脱炭素未来プランについて
視 察 概 要	<p>◎亀岡市の目指すカーボンゼロ・脱炭素未来プランについて 人口 83,996 人（2025 年 9 月）面積 224.8 平方 km 令和3年1月 亀岡市の脱炭素宣言 3つのゼロの実現に向けて 1. プラゴミゼロ 2. ゴミを出さない 3. カーボンゼロを掲げ 新たな資源循環システムで脱炭素社会を実現 「経済循環型ゼロカーボン亀岡」を理想像として 2050 年脱炭素社会実現に向けて CO₂ 排出量実質ゼロへ取り組んでいる。 2030 年度までに市役所で出る温室効果ガス基準年度 2013 年比 50% 削減。 2030 年 40 千 t—CO₂ を 2050 年度の削減目標 144 千 t—CO₂ とする。 2050 年度の CO₂ 排出量をゼロとする目標。</p> <p>◎再生可能エネルギーの導入目標 2030 年 11.6 万 MWh/年。2050 年 42.3 万 MWh/年。 太陽光発電によるエネルギー地産地消の取組。主に公共施設に設置。 地域再生エネゾーニング事業、地域の再エネへの取組導入。 ・太陽光発電：屋根設置型発電設備と地上設置型発電設備 ・バイオマス発電：2000 kW 以上の大規模、小規模 カーボンニュートラルエリア：市内農地全域を「カーボン排出抑制エリア」 農地を地域資源として排出抑制エリアとしている。 民間提案制度により企業の取組みを推進し実績を上げている。 ゴミ焼却場は現在、排熱利用をしているが、今後の新規建替え時にゴミ焼却発電に取組みたいとの部長答弁。 温室効果ガス排出量の将来推計、脱炭素シナリオによる削減目標から再生可能エネルギーの導入目標の数値目標を立て、目標達成に向</p>

	けた対策・施策を立て分かり易い「かめおか脱炭素未来プラン」の説明。
所見及び所感	<p>亀岡市のカーボンゼロ・脱炭素未来プランは先進的、今回の研修で学ぶべき点が多くあった。また、積極的にゼロカーボンに取り組む担当職員の環境政策について知見が高く、教えられる部分が多くあった。</p> <p>当市でこれから取り組むべき点は数多くある。今後、施策提案をしていきたい。</p>

総務環境常任委員会委員 内 山 恵 子

日 時	令和7年10月22日(水) 13時00分～15時00分
視 察 先	三重県菰野町
視 察 目 的	<p>特定事件 19 交通安全について</p> <p>特定事件 22 都市計画事業について</p> <p>・先進モビリティサービスについて</p>
視 察 概 要	<p>【菰野町の先進モビリティサービスについて】</p> <p>1 菰野町の概要 地域特性と人口規模、主要産業等</p> <p>2 菰野町が目指す公共交通 菰野町地域公共交通会議の概要 気軽におでかけしたくなるまちを実現する5つの目標</p> <p>3 町内各公共交通機関の現状 6つの公共交通機関 コミュニティバス、ロープウェー、鉄道、路線バス タクシー、のりあいタクシー 利用促進のための取組</p> <p>4 菰野町MaaS「おでかけこもの」 ・MaaSシステムの開発・導入の経緯 ・機能改善と利用率維持に向けた機能改善 ・国、県補助金の獲得とサービス向上 ・システムの実証結果と機能改善の概要 ・「おでかけこもの」にアクセスし操作を体験 ・運営にかかる費用 ・高齢者の利用促進のための取組</p>

	5 質疑応答
所見及び所感	<p>菰野町の地域の特性を分析し、駅までのスムーズなアクセスを確保するために菰野町 MaaS 「おでかけこもの」を開発し、年度の実証結果を分析し年々機能を拡充している。</p> <p>町の公共交通の運行状況を個々に分析し、効率的な運行のためにコミュニティバスの路線を集約し、「のりあいタクシー」と併用させ、町内の短中距離・長距離のニーズに合った移動手段を提供する等、きめ細かく丁寧に事業を進めている印象を受けた。</p>

総務環境常任委員会委員 内 山 恵 子

日 時	令和7年10月23日 (木) 9時30分～11時30分
視 察 先	京都府亀岡市
視 察 目 的	<p>特定事件 16 環境・公害対策について</p> <p>特定事件 18 リサイクル及びごみ処理対策について</p> <p>・かめおか脱炭素未来プランについて</p>
視 察 概 要	<p>【かめおか脱炭素未来プランについて】</p> <p>1 亀岡市の概要</p> <p>　　地域特性と人口規模、主要産業等</p> <p>2 かめおか脱炭素未来プランの概要</p> <p>　　恵まれた地域資源を生かし脱炭素社会の実現を目指す</p> <p>　　2050年脱炭素社会の実現</p> <p>　　(1) 亀岡市の温室効果ガス排出量の現況・将来推計</p> <p>　　(2) 温室効果ガスの削減目標</p> <p>　　(3) 再生可能エネルギーのポテンシャル・導入目標</p> <p>　　(4) 目標達成に向けた対策・施策</p> <p>3 亀岡ふるさとエナジー株式会社の概要</p> <p>　　(1) エネルギーの地産地消</p> <p>　　ア　自家消費型太陽光発電</p> <p>　　イ　エネルギー分野の事業展開</p> <p>4 亀岡市地域再生エネジーニング事業の背景と目的</p> <p>　　ゾーニングエリアの区分と対象設備</p> <p>　　検討のプロセス（保全、調整、促進、導入可能性検討エリア）</p> <p>　　太陽光発電とバイオマス発電→地上設置型太陽光発電設備</p> <p>5 民間提案制度の概要</p>

	民間の先進的な知見や技術を取り入れ地域特性等を踏まえた事業の実現
所見及び所感	<p>令和3年1月から地域循環共生圏の発展と亀岡ブランドの向上を目指す目的で始まった「経済循環型ゼロカーボン亀岡」。</p> <p>2050年までにCO₂排出量実質ゼロに向け、エネルギーの地産地消、PPA自家消費型太陽光発電の実施と事業を進めている。</p> <p>和光市も令和7年3月にゼロカーボンシティ宣言を行い、同様の目標を掲げているが、実現への取り組みは課題が多いと感じた。</p>

総務環境常任委員会委員 吉 田 武 司

日 時	令和7年10月22日(水) 13時00分～15時00分
視 察 先	三重県菰野町
視 察 目 的	<p>特定事件 19 交通安全について</p> <p>特定事件 22 都市計画事業について</p> <p>・先進モビリティサービスについて</p>
視 察 概 要	<p>人口の約4割が居住する町南部は鉄道駅などが住居に近接しているため、公共交通に対する満足度は高いが、6割の町民が居住する町北部は、公共交通の充実を求める声が高い。鉄道駅、基幹病院、保健福祉センター等が町南部に存在するため、町北部から町南部への移動手段の充実が課題となっている。朝夕は通勤・通学輸送が主体となるが、日中は高齢者の利用が多数を占める。</p> <p>菰野町の公共交通は鉄道（近鉄湯の山線）、三重交通路線バス、尾高タクシー、御在所ロープウェイ、町が運行しているコミュニティバスとのりあいタクシーがあり、これら町内の様々な公共交通を使って町内のおでかけを便利にするために、菰野町MaaS「おでかけこもの」の実用化に向けて取り組んできている。</p>
所見及び所感	<p>菰野町MaaS「おでかけこもの」は菰野町地域公共交通会議が主体となり、取り組んでいる。26名の構成員で組織し、毎年3～4回開催している。また、地域住民の声を聴く地域懇談会を町内5大地区で毎年7月から8月に開催し、コミュニティバスやのりあいタクシーなどの運行改善や今後の交通施策に反映させている。</p> <p>公共交通で気軽におでかけしたくなるまちを目指して、1. 高齢者が車がなくてもおでかけしたくなるまち、2. 小中高生が元気に通学し活動したくなるまち、3. 来訪者が安心して移動したくなるまち、</p>

4. 様々な人が安心して移動したくなるまち、5. 持続可能な交通体系を持つまち、の5つの目標を掲げている。

路線バスは4路線、タクシーは17台、コミュニティバスは4台（ポンチョ）のりあいタクシーは3台。以前は、コミュニティバスは福祉バスとして町内集落を全て結んでいたが、のりあいタクシーの運行に伴い、支線系統を廃止し、幹線系統に集約し、コミュニティバスとのりあいタクシーの併用を始めた。のりあいタクシーはエリア内に設置された「乗車場所」から「乗降場所」まで乗車でき、のりあいタクシー運賃のみでコミュニティバスと乗り継ぎが出来る。現在の乗降場所は304か所ある。のりあいタクシーの乗合率は令和6年の運行回数は1,225回、予約数1,459回、乗合となった運行回数234回。

コミュニティバス運行経費は、運賃収入7.6%、国補助金6.1%、町委託料86.3%で総運行経費は88,950,642円、のりあいタクシー運行経費は、運賃収入12.3%、町委託料87.7%、総運行経費は30,615,20円である。バス路線は基幹部分に絞り、枝葉の部分をのりあいタクシーで運行することで利便性を向上、利用率や運行効率を上げるため、NTTドコモと菰野町MaaS「おでかけこもの」を開発、導入。

誰もが利用できるように、各地域でスマートフォン教室を開催、講師はNTTドコモから派遣。総務課窓口でも職員が利用説明。おでかけこもの運営費用は、イニシャルコスト（初年度）、国補助金45.0%、町委託料55.0%、MaaS実装費合計31,570,000円、ランニングコストは、個人情報保護費1.0%、サービス利用料72.0%、サーバー利用料24.1%、デジタルサイネージ利用料2.9%、システム関連費用合計12,420,000円かかるが、各自治体の実情に応じた考え方次第であることであった。

今回の視察では、コミュニティバスを利用し移動、同乗した方々からは説明で聞くことのできない、コミュニティバスの利点、のりあいタクシーの課題などの生の声を聞くことができ、有意義な視察となつた。

総務環境常任委員会委員 吉田武司

日 時	令和7年10月23日（木） 9時30分～11時30分
視 察 先	京都府亀岡市
視 察 目 的	特定事件 16 環境・公害対策について

	<p>特定事件 18 リサイクル及びごみ処理対策について • かめおか脱炭素未来プランについて</p>
視察概要	<p>地球温暖化によって豊かな自然環境が失われることのないよう、亀岡市では、世界に誇れる環境先進都市を目指し、令和3年に「かめおか脱炭素宣言」を表明しました。市、事業者、市民が力を合わせ、令和32年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指し、志と同じくする世界中の自治体とともに気候変動対策に取り組み、持続可能な地域づくりを進めている。</p> <p>亀岡市、パシフィックパワー株式会社、亀岡商工会議所、株式会社京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫、京都北都信用金庫との共同出資で、京都府内発の地域新電力会社「亀岡ふるさとエナジー株式会社」を設立。平成30年4月から公共施設の一部へ電力供給を行い、エネルギーコスト削減と収益を地域に還元する仕組みを構築する。亀岡ふるさとエナジー株式会社と東京センチュリー株式会社及び京セラ株式会社が共同出資する京セラTCLソーラー合同会社は、亀岡市内にあるメガソーラー発電所で発電された電力の買取りを開始。市内の公共施設など約83施設に電力供給をし、これにより供給電力の約60%を亀岡市内で発電された再生可能エネルギーから調達可能になり、事業目的の一つとしていた、エネルギーの地産地消により地域活性化を目指す取組が本格化した。</p>
所見及び所感	<p>地球温暖化が進行すると、地球の気象が変化し、異常気象による災害の頻発や干ばつによる食糧危機、海面上昇による居住地の喪失などが引き起こされる。私たちの生活においても、台風や集中豪雨等による災害をはじめ、熱波による熱中症等が身近な問題となっている。</p> <p>地球温暖化の対策には、温室効果ガス排出量の抑制等を行う「緩和策」と、現在及び将来の気候変動の影響を軽減・回避する「適応策」の二本柱がある。気候変動を抑えるためには緩和策が最も重要なが、最大限の排出量削減を行ったとしても、既に排出された温室効果ガスは長期間にわたって蓄積され、ある程度の影響は避けられない。地球温暖化のリスク低減のためには、緩和策と適応策を車の両輪として進めていくことが重要である。</p> <p>ゼロカーボン亀岡の実現を目指し、亀岡市の恵まれた資源を活用した市域の脱炭素化の推進、地域循環共生圏の発展を実現するため、官民連携で設立した「亀岡ふるさとエナジー株式会社」による再エネ供</p>

給・省エネサービスを展開し、2050 年度温室効果ガス排出量実質ゼロの実現に向けて、エネルギーの地産地消による経済循環と温暖化対策の両立に取り組んでいる。農地も重要な地域資源であり、田畠を活用した営農型の太陽光発電として、農地転用などの調整を図りながら、ソーラーシェアリングを促進。太陽光発電設備を設置する際は、作物の栽培に必要な日光の量を確保するためにパネルの設置面積を減らすことや、農機の運用に支障が出ないようパネルの高さや設置幅を最適化することで、農作物の栽培と発電を両立させている。電力の創出により、農業従事者の所得向上が見込まれるほか、グリーン電力を活用することによる農作物の高付加価値化も期待されている。

亀岡市では、新築住宅にソーラーパネル設置義務はない。今回の和光市のゼロカーボン推進事業補助金について、宅配ボックスを対象とする考えは亀岡市としては予想外のことであった。

まずは、自治体がしっかりと方向性を示すことの重要性を感じた。その上で、行動を起こすことで住民や企業の関心を高め、より大きな取組へと波及させていくことが必要であり、そうすることで一見、中心施策になりにくい「環境」でさえ、自治体にとっての強みとなり得ると実感した。